

西表島農業ボランティア体験記

私は3月2日～16日の2週間、農業ボランティアとして西表島に滞在しました。滞在先は、海岸のすぐそばで夜には蛍が見られる場所と、想像以上に自然が近く、私もすぐに自然の広さに魅せられました。訪れた時、農園では田植えのシーズンで、日差しが降り注ぐ中で作業を行ったり、小学校での田植え体験の手伝いを行ったりしました。また月桃の葉の収穫、月桃茶葉の製作、パッキングなど行ったことのない作業を経験しました。農園で食べるご飯はとても美味しく、仕事終わりに魚やモズクを獲りに行き食べるという、自然と食が密接に関わっている環境はとても魅力的でした。同時期にボランティアをしていた方の中には、海外から来ている方もいて、日本との価値観や習慣の違いについて話をしました。

西表島は世界自然遺産に登録される可能性のある島です。登録の話や土地の開拓に関しては生物を学ぶ者として考えさせられる面がありました。登録に対し島民の受け止め方は複雑でした。観光客の受け入れ施設に関する問題、山から切り出した木から作られる住宅、海岸に打ち上げられた大量のプラスチックゴミと、島の様々な問題を目の当たりにし、考えさせられました。生物多様性の重要性が認識されつつある今、人の活動と自然環境の関わり合いの難しさを肌で感じ、今後の大学生活での勉強や研究の際に視野を広く持つことの重要性を学ぶ事ができました。

農業ボランティアで体験できた事はとても貴重であり、そのきっかけを作ってくださった生物資源開発学科の先生に感謝しています。

生物資源開発学科2年 M. H.



ピナイ川でカヌーをした時の写真。水面に映る西表の山々が美しかったです。



神奈川県では見ることのできないマングローブ。潮が引いた際は気根やハゼが近くで観察できる絶好の機会でした。



カヌーを降りて少しトレッキングをすると現れるピナイサーラの滝。西表島一の落差を誇る滝から見渡す西表島の自然に感動しました。



農園から見える海。仕事終わりに魚や水雲をとった思い出深い海です。